

京三中から山城高併設中学へ

山城4回 上田 格

終戦直後の昭和二十一年度三中人学生は、中学の三年間を通して、いつも最下級生だった。翌年度に学制改革が実施され、六・三制の義務教育発足で、ぼくらの一年下からは新制中学生となり、後輩を迎えることはなかった。つまりぼくらは旧制最後の中学生だったのである。

三中では、木造二階建て本館の北側に建つ木造の細長い平屋校舎が一年生用として割り当てられていた。両建物とも学校創建当時からのものであったのだろう。相当古びていた。二年生になれば、その古校舎を抜け出て鉄筋三階の新館に移れるものと期待していたが、翌年度も一年のときと同じ校舎で、変更はなかった。この校舎と体育館との間は少し広いスペースがとってあり、休憩時間にはここでキャッチボールなどをしたものである。体育館は、当時としては立派な施設で、よく旧制高校のバスケットボールのインターハイ試合会場としても使われてい

た。そんなときには、弊衣破帽に下駄履きの高校生応援団がや
つてきて、大声での応援合戦が始まり、それを見たさにこつそ
り授業を抜け出した思い出もある。

三年生になったとき、校名が山城高校に変更され、ぼくらは
その高校の併設中学校の生徒になったのである。確か新校名は、
生徒からの公募で決まったと思う。

そのころ山城に桂高校が移ってきて、授業は二部制に変更さ
れた。桂高校の校舎が、新制中学に転用されたためである。午
前は山城、午後は桂というふうに（交互に変更）変則授業体制
に変わり、それは夏休み前まで続いたと記憶する。

運動場北側にある本造二階建て校舎（教室の窓に金網が張ら
れていたので通称とりごやと呼んでいた）に入ったのは、三年
生になってからである。ここにはトイレがなく、雨の日など傘
をさして、運動場を横切ったものである。放課後の運動場は、
野球部やラグビー部、サッカー部などが所狭しと練習をしてい
て、時々ボールがとりごや教室の金網を直撃したりした。

三年生の十月、京都の教育界に大改革が導入された。総合
制、男女共学制、小学区制の「高校三原則」である。入学した
三百二十三人のうち山城に残ったのは約百人ほど。一方他校か
ら転校を余儀なくされて来た生徒の方が多く、開校以来初めて
女子生徒を受け入れるというので、急遽女子用トイレも新設さ

れた。

先述の「とりごや」は六教室なので、併設中学のうち、いくつかのクラスは「とりごや」だけでは収容しきれず、新館一階の教室も使っていた。新制度下でスタートする併設中学のクラス分けは、全生徒の名前を男女混みの五十音順に並べ、頭から約五十人単位で区切って各クラスを順次に編成したので、同じクラスに同一姓の生徒が何人もいる場合が生じた。そういう場合、みんなは互いに姓ではなく、名で呼び合ったりしたものである。また座席もこういうクラス別け手法の背景にも、戦後の男女平等主義が窺える。

「とりごや」の北側は民家の裏庭になっていて、時々幼児や赤ちゃんの泣き声なども聞こえてきた。そういう生活臭漂う環境であつたから、決して好ましい学びの環境ではなかった、と今になって思い出すのである。

「とりごや」に関してもう一つ記録しておきたいことがある。同期S君からの教示で知ったことだが、この校舎は昭和二十二年度の一年間、新制の「洛西中学」として使用された。同校の校長は三中と同じだが、三中とは別組織であり、従つて三中の「併中」ではなかった。